

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「自分を見つめ ともに 未来をつくる子」
○響き合う豊かな学びの中で 自分を見つめ ともに 探究する子(知)
○たくましく しなやかな 心と体を持ち 互いを大切に し ともに けんこうな生き方をつくる子(徳)(体)
○人やまちと関わり合いながら まちに誇りをもち ともに 新しい価値をつくり出す子(公)(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

具体化した資質・能力

<探究する力>
<けんこうな生き方をつくる力>
<新しい価値をつくり出す力>

情報を基に意思決定、行動選択する力 試行錯誤する能力
協働的に行動する姿勢 新しい知識や問いを作り出す力

中期取組目標

- 問題解決的な学習過程を重視し、協働的な学びを通して、持続可能な社会の実現に向けて自らの生き方を考える子どもを育てます。
① 問題解決的な追究過程を大切に、教育活動の作り方を見直します。
② 地域、社会に広く材を求めながら生活科、総合的な学習の時間を中心とした探究的な学びを創ります。
③ たくましくしなやかな心と体を育む健康教育のあり方を見直します。
④ 人やまちと関わり合いながら地域・社会を大切にす気持ちを育てます。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (授業改善) and 具体的取組 (①教育課程全体で育成を目指す資質・能力を児童一人ひとりに育むため、「生活・総合」を中心とした研究を推進する。②資質・能力の育成が実現されているかを評価し、取組改善サイクルを構築する。③単元を通して考え理解することを明確にし、単元目標の達成を目指した単元構想の重要性を理解する。④問題解決的な学習を充実させるため、年間を通して授業改善を積み重ねる。)

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童生徒の実態
学習意識については、全体的に学習に前向きで、どの教科でも粘り強く取り組む児童が多く見られる。一方で、各教科で苦手とする力も見られる。
国語では、読む力、話す・聞く力は概ね身に付いている。必要に応じて質問したり、伝えたいことの中心を捉えて考えをもって話すことも、学年が上がるとともに進んでいく。漢字・言語等の知識、理由を明確にして書く力については、習熟度に大きく差がある。
算数では、基礎的学力は概ね定着している。文章題等の「数量関係に着目し、目的に合った表現方法を用いて計算の仕方を考察する力」に課題が見られる。知識・技能を活用する力を高めたい。
理科では、結果の原因や理由について述べることに苦手意識を感じている児童が多い。予想や仮説を立てる段階では、既習事項や生活経験をもとに根拠立てて発想ができていく学年もあるため、結果を考える際にも知識と結び付けて考えられるようにすることが求められる。
社会では、資料に基づいて根拠立てて考える力は概ね身に付いている。地図帳等の具体的資料から必要な情報を調べまとめる技能(特にICTを活用した情報収集力)に課題がある児童も見られる。
※令和3年度市学力・学習状況予備調査は不参加
(2)これまでの学校の取組状況
全学年で、学年で統一した課題を中心に計画的に家庭学習を進め、基礎基本の定着や、主体的に学習に取り組む姿勢を育むようにしてきている。また、これまでの「健康科」の研究の蓄積を基に、令和2年度より資質・能力をベースとした教科等横断的に行う探究的な学びについて重点研究に取り組んでいる。

今年度の目標

新学習指導要領、市立学校カリキュラム・マネジメント要領に準拠しつつ、宮谷小学校の特色を生かしたカリキュラムマネジメントサイクルの実現

目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期
○生きて働く学力を向上させるための学習の仕方を共有する。
・各教科・領域等での問題解決的な学習活動の推進
・教師のねらいを明確にし、児童が考えるべきことを焦点化してきちんと立ち止まる授業づくり
・見方・考え方を身に付け、知識・技能の定着を図るために、それらの繋がりが方や使われ方、どう役立つのかが分かる授業構成の工夫、学びの可視化
○書く活動やノート指導の充実を図る。
・正しく漢字・言語を使い、理由を明確に考えを整理して記述する等の書く力を高める指導の手立ての工夫
○達成感を得て、自尊感情を高めることのできる授業の構成を工夫する。
・共有化を意識した課題の設定、問題解決に向けて一人ひとりが学習の見通しをもつための時間の確保
・視覚的支援等、音声言語に加えた個別の支援の手立ての工夫
○基礎学力のさらなる定着に向けて、家庭学習等で家庭との連携を深める。
・家庭と情報を密に共有し連携して行う家庭学習や補充指導等の取組の強化
下半期
○改訂学習指導要領、横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領に準拠した、特色ある教育課程を編成・評価・改善する。(学級カリ・年間計画・週案の作成、評価)
○市学習状況調査の結果やさまざまなデータを活用・分析し、教育課程の改善を図る。(市学状の活用)
○重点研究も含めた教科全体でふりかえりを意識した授業づくり及び授業改善を徹底する。

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (道徳教育) and 具体的取組 (①道徳科の授業を要として学校の教育活動全体を通して行う道徳教育を推進する。②道徳科授業の充実、なかよし活動、人権委員会、清掃活動、集会活動等の実践を通して豊かな心の育成を図る。③あいさつを通して、地域や校内の自分をとりまく方々とのよりよい関係構築を目指し、全職員で取り組む。)

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態
本校の児童は、真摯に物事を受け止め、進んで挨拶をし、様々な教育活動に対して意欲的に活動している。コロナ禍以前においては、地域行事にも進んで参加し、地域の一員としての自覚をもって過ごしていた。一方、集団の中で、自分の思いを進んで表現することに抵抗を感じる様子が見られる児童もいる。児童の自己肯定感をより高めていく必要があると考える。
(2)これまでの学校の取組状況
道徳科における教師の授業力の向上や、家庭・地域の理解を得て連携を図るために、道徳科の研修や授業公開を定期的に行っている。
年2～3回、Y-Pアセスメントを行い、学年等で各学級の傾向や個々の児童の実態を把握・共有し、各学級に適したY-Pプログラムを計画・実践して、豊かな心の育成につなげてきている。
令和2・3年度横浜市オリ・パラ教育実践校として、人権教育の取組や横浜の時間等でパラリンピックを取り上げ、その理念や選手・競技への理解を深めながら、多様性を認め、相手を思いやる心を育んできた。その経緯を今年度以降も生かしていく。

今年度の目標

自己の生き方を考え、主体的な判断のもとに行動する子どもの育成

目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期
○年間指導計画(学年層)や学級層を活用し、学校行事や各教科、総合的な学習の時間(「宮谷タイム」)等、豊かな体験との関連を図った道徳科の授業を行う。
○年間指導計画(学年層)や学級層に沿った全学級の道徳科の授業公開を年1回以上実施する。
○導入や終末の工夫や、板書、教材活用方法等の授業設計について研修し、授業力を高めることで、主体的で対話的な道徳科の授業づくりに取り組む。
○Y-Pプログラム年間計画に基づき、アセスメントを行って学級の実態を把握し、実態に合わせたY-Pプログラムの計画を立て、実践する。
下半期
○年間指導計画(学年層)や学級層を活用し、学校行事や各教科、総合的な学習の時間(「宮谷タイム」)等、豊かな体験との関連を図った道徳科の授業について、振り返りを行い、修正・改善を行う。
○年間指導計画(学年層)や学級層に沿った全学級の道徳科の授業公開を年1回以上実施する。
○導入・終末の工夫や、板書、教材活用方法等の授業設計について研修し、授業力を高めることで、主体的で対話的な道徳科の授業づくりに取り組む。
○Y-Pプログラム年間計画に基づき、定期的アセスメントを行い、学級の実態に合わせたY-Pプログラムの実践の振り返りと、計画の修正・改善を行う。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健康教育) and 具体的取組 (①体育科を中心とした各教科での学習を通して、たくましくしなやかな心と体の育成を図る。②各教科・領域等での学習を通して、食に関する知識・食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができるようにする。③運動する楽しさや喜びを知り、日常生活における適切な体育的実践するとともに、生涯を通して健康で安全な生活を送るための基礎が培われるようにする。)

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童生徒の実態
一昨年度までの「健康科」の学習、体育科の学習、食育等を通して、自分自身の健康を見つめ、今後も健康を保持するための知識を十分に身に付けている子どもが多い。けがの手当の仕方が分かったり、栄養バランスのとれた食事の摂り方を理解したりすることができている。一方で、身に付けた知識を実践しようとする意欲はそれほど高くない現状がある。
朝食の摂取率や歯科巡回指導での結果は、市の平均を上回る結果が出ており、これまでの「健康科」を中心とした研究や取組における家庭との連携の成果が表れていると考えられる。
体力テストの結果では、数年前は市平均より低い種目が多かったが、年々平均値に近付いてきており、昨年度は市平均に近い種目が多くなった。昨年度までの1校1実践等の体力づくりによる運動能力がついてきていることを示す結果だと考えられる。
(2)これまでの学校の取組状況
一昨年度まで「健康科」の研究に継続して取り組み、運動や保健、食育等について、本校独自のカリキュラムを基に、教科書の内容からさらに発展した学習に取り組んできた。
体力づくりに関しては、令和元年度まで、長縄や持久走、横浜市スポーツ協会と連携した「エンジョイスポーツタイム」に継続して取り組んできた。また、コロナ禍においても、児童数の多い本校で施設面で体育的活動が難しくなった中で少しでも体を動かすことのできる時間と場所を確保するよう、学年ごとに日や時間を分けて使用したり、身体接触がなくてもできる内容を共有したりと、工夫して取り組んできた。令和2・3年度横浜市オリ・パラ教育実践校として、パラ競技「ポッチャ」を進んで教育活動に取り入れている。

今年度の目標

たくましくしなやかな心と体を継続的に育むためのカリキュラム・マネジメント

目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期
○体育科を中心とした各教科での学習を通して、たくましくしなやかな心と体の育成を図るためのカリキュラム・マネジメントを行う。
○「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができるようにするため、給食指導や栄養指導、各教科での学習を年間指導計画に位置づける。
○体育科の指導では、子どもの運動への関心・意欲を高めるための教材研究を行ったり、仲間とかかわる場を設定し互いに学び合う力を高めたりしていく。
○「学校だより」(保健だより・給食だより)等を通して、子どもたちの様子や学校の取組を家庭・地域に発信し、たくましくしなやかな心と体の育成のための連携を図る。
下半期
○たくましくしなやかな心と体の育成を目指したカリキュラムを遂行した結果を分析し、修正を図る。
○「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができるようにするために設定した年間指導計画を振り返り、修正を図る。
○体育科の指導では、子どもの運動への関心・意欲を高めるための教材研究を行ったり、仲間とかかわる場を設定し互いに学び合う力を高めたりしていく。
○「学校だより」(保健だより・給食だより)等を通して、子どもたちの様子や学校の取組を家庭・地域に発信を継続し、たくましくしなやかな心と体の育成のための連携を図る。